

長泉町・さわやかハイキング報告書

通算山行NO	NO・66	報告者	原田伸一郎
年月日	2009年08月08日(小雨・曇り)	2万5千	白馬岳
山名	白馬岳(2932m)		
体力度 = 4・やや厳しい 技術度 = 3・普通 藪漕 = 無し 道標 = ある トイレ = 有り 展望度 = 良い 三角点名 = 白馬岳・一等三角点			
<b>白馬岳周辺は高山植物の宝庫だ！</b>			
コース とタイム	下土狩 3 : 30 - 梅池高原 8 : 05 - 梅池自然園 9 : 03 - 天狗原 10 : 30 - 白馬大池 11 : 35 - 白馬大池山荘 11 : 53 - 小蓮華岳 13 : 56 - 白馬岳 15 : 25 - 白馬山荘 15 : 40 交流会 夕食 18 : 30		
標高差	上り 梅池自然園 1860m ~ 白馬岳 2932m = 約 1072m 下り ほとんどない		
参加者	CL・後藤隆徳、大塚睦志、近森正彦、中村圭吾、永尾 広、石和佳代子、 河野光江、原田伸一郎、村上充彦、村上美恵子、峰田光江、世古悦子 土屋弥生、増田真理子、佐々木和夫、鈴木恵美子 = 16名		

8月8日(土)午前3時30分に下土狩駅を出発という、何ともハードなスケジュールでスタートした山行だった。当然のことながら、全員朝までバスの中で眠りにつくことになった。7時15分頃青木湖を通過した。

後藤講師によると、ずっと昔この湖にバスが転落した事故があったという。そう言われてみると、現在我々が走っている道路の向こうに湖畔沿いの道路が見える。7時30分頃、白馬駅に到着。ここでトイレ休憩を取り、何名かが白馬岳周辺に咲いている高山植物図鑑を購入した。



天狗原 = 夏と冬の違い



8時5分、白馬高原ゴンドラリフト乗り場に到着し、8時15分頃4名1組でゴンドラに乗り込んでスタートした。途中の中継点でうっかり降りようとして、Iさんに引き止められた。う~ん、あぶないところだった。

8時45分頃、ゴンドラリフトの終点であるロープウェイ乗り場に到着し、我々全員が一度に乗れるロープウェイに乗り込んだ。ロープウェイの真下にはたくさんのオオシラビソの木が群生しており、その頂上に青い松ポックリのようなものを付けていた。昔の人はオオシラビソの木を榎(つが)と呼んでいたもので、これが地名の語源になったとロープウェイから案内が流れていた。

この松ポックリのようなものは、時間が経つと茶色に変色し、一枚一枚落葉すること。アナウンスの最後には、本日は大雨注意報が出ているので要注意とのコメントがあり、そんな～という気分になったのは私だけではあるまい。確かに窓を見ると、ポツリポツリと雨が降ってきてはいたけれど...



白馬大池



チシマギキョウ

9時30分梅池自然園に到着。ここから天狗原まで緩やかな道が続く。同班のNさんの後をついて歩いていると、Nさんの大きな変化を発見した。水芭蕉は私にもわかったが、これはオタカラコウ、あれはヤマハハコ、オトギリソウ、キヌガサソウ、ホツツジ...云々と、次から次へと高山植物の名前が出てきたときには、全く別人を見ているようだった。

ほんの2ヶ月前に岩櫃山と巻機山へ同行したときは、私と大差ないと思っていたのに。これほど明確に彼我の差を見せつけられては、頭の中が真っ白になる思いだった。ドンマイ、ドンマイ、花の名前を覚えられない人間なんて世界中に数え切れないくらいいる筈だ、と自分を慰める。

9時58分に初めての雪渓に出会った。Nさんの口からは、ヒオウギアヤメ、タカネバナ、イワギキョウ...云々といくらでも出会った花の名前が聞こえてくる。ここで発想を転換することにした。Nさんが説明してくれる花の名前をしっかりと記録すれば、自分も花の名前を覚えられるかもしれない。そんな妄想に耽っていると、11時20分頃に白馬乗鞍のケルンに到着した。

11時35分、白馬大池に到着。Nさんから聞いたシャクナゲ、チングルマ等の草



小蓮華山



白馬岳

花を横目に池の周囲を散策すると、11時53分に白馬大池小屋に着いた。この辺り帯は、大きな池と広々とした草原が美しい緑の世界を現出していた。小屋の裏手で昼食休憩を取り、12時20分に出発した。ここからは我々の班が先発隊となり、白馬山荘のできるだけよい部屋に全員が宿泊できるよう手続することになった。Nさんは相変わらず学者の如く花の名前を唱え続けていた。

ハクサンコザクラ、コイワカガミ、ゴゼンタチバナ、コマクサ、ミヤマキンバイ、クルマユリ、タムラソウ、コバイケソウ、ヨツバシオガマ、ミヤマタンポポ、ミヤマコゴメグサ、ウルップソウ...云々。

13時56分、小蓮華岳の頂上に到達。ところで、Nさんの関心は高山植物だけではなかった。若い女性に気軽に声をかけて、すぐ仲間のようにになれるのは素晴らしい特技であり、羨ましい限りだ。声をかけた女性の方々と抜きつ抜かれつの登山は、疲れた心身に刺激を与えてくれたが、表現できない恥ずかしさが上回ったように思う。白馬岳山頂に到達したのは15時25分で、後藤講師に無線で報告していると、5分も経たないうちに後続隊が到着した。ちょっと道草が過ぎたかなと思ったとき、「早く宿舎を予約せよ」と無線から後藤講師の声が聞こえた。

後の報告によると、小蓮華の上りでOさんの足が攀ってしまったようだ。講師が荷物を置いて下り、様子を見に行った。もし下るなら今しかない。Oさんも巡礼では結構歩いているが、本格的な山は久しぶり。サロンパスで刺激し何とか歩く。しかし、ピッチははかどらない。そのうち、ペースが一定でなく調子が狂ってしまったMさんも「シュ～」で手当て。

白馬岳山頂から10分足らずで白馬山荘に到着。白馬駅で後藤講師が入手された営業マンの名刺が威力を発揮して、正規の宿泊料9千円より5百円の割引を獲得できた。みんな疲れてはいたが全員で喫茶・飲酒を楽しみ、夕食のハンバーグ定食を堪能した。

白馬山荘では飲料水が無償で提供されており、トイレも比較的清潔だったので、ホッととして眠りに就いたのは私一人ではないだろう。



白馬岳頂上

小屋のサロンで交流会



ウルップソウは  
遅かった



#### その他の記述（この項・後藤）

- 1 . 講師は添乗員扱いで、梅池ロープウェイ・1550 - は無料だった。
- 2 . 今回、さわやかハイクで装備した無線機（2台・85000 - ）は、随所で威力を発揮した。
- 3 . 最終が小屋着 16 : 30。2時間サロンで交流会後、18 : 30から夕食。夕食は大きいハンバーグで、まあまあ美味しかった。ただ、大き過ぎて食べきれない人が多く。私がいただき、翌日の行動食にゲット。
- 4 . 部屋は、6畳に8人の貸切。何故か「イビキ」は静かだった。（??）
- 5 . このコース余裕があれば、1日目 = 下土狩を普通に出発し、白馬大池宿泊。2日目、白馬三山を縦走し、白馬鑓温泉宿泊。温泉を十二分堪能。3日目 = 猿倉までゆっくり・ゆったり下山。ああ、私はこんな山をしたい。（笑い）